

〈感圧紙〉との コラボレーションで 成し遂げた医療業界の“変革”



株式会社イステムジャパン

会長
石川 美雅氏

■株式会社イステムジャパン 東京都墨田区東向島6-10-16 ネクストビル

東京都墨田区東向島に本社を置き、病院印刷物の製造を中心に、医療福祉コンサルティング事業、医療用什器・備品販売事業などを展開。創業は1918(大正7)年。1968年に東京都立各病院の診療関連帳票制定に全面協力したことが契機となり、医療機関向け帳票の印刷が主要業務に。1981年には国内でいち早く、コンピューター上のデータベースを利用した病院印刷物の版下作成・印刷システムを完成、2006年にはインターネットを利用した病院印刷物製作システム「どこでも印刷」のサービス提供を開始するなど、コンピューターやITを活用したサービスにも早くから力を入れている。



「カラフルで機能的な帳票」という新たなスタンダードを築き、日本の医療現場を支えてきた株式会社イステムジャパン。その飽くなきチャレンジを助け、共に走り続けてきたのが〈感圧紙〉でした。

今年で創業95周年を迎えるイステムジャパン。検査依頼書など医療機関で使われる帳票類の印刷を中心に、病院向けの業務コンサルティングから備品リリースまで、診療現場のニーズを鋭くとらえた幅広いサービスを手掛けています。

医療業界における同社の躍進は、38年前、社長として経営を引き継いだばかりの石川美雅・現会長が、日本初の四色分解による多色刷り医療用複写伝票を世に送り出したことから始まりました。

「カラフルで見やすいだけでなく、『血液の項目はピンク』『血清はブルー』といったように、各色に意味を与えて帳票の機能を高めたことが、お客さまに大きく評価されました」

そのインパクトは非常に大きく、今では全国の医療機関で、イステムジャパンの定めたカラーリングルールが、検査依頼書などの標準規格となっているほどです。

石川会長の画期的なアイデアを成功に向けて後押ししたのが、〈感圧紙〉でした。

「時をほぼ同じくして、富士フイルムが多色印刷用の『ビューティフルA紙』を発売。当社のニーズと見事に合致したんです」

決断の速さを身上とする石川会長。早速複写用紙の全量を〈感圧紙〉に切り替え、以来38年間、同社の複写伝票は〈感圧紙〉で印刷され続けています。

「二度信頼した相手とは、とことん付き合うのが私の主義。その分、富士フイルムさんにもいろいろとご協力いただいています」

富士フイルムによる顧客サービスのなかで、石川会長が特に評価しているのが、『グリーンサークル』誌(詳しくは7面下の囲み参照)の発行です。

「再受注を予測する『サイクル管理』の特集からヒントを得て、受発注管理用の基幹ソフトを自社開発。さらに同じシステムを活用して、お客さまへの在庫管理サービスを開始するなど、事業が大きく広がるきっかけにもなりました」

〈感圧紙〉を武器に、「医療現場で使われる複写伝票」にとことん特化した事業体系を築き上げてきたイステムジャパン。検査受託機関の大手を軒並み顧客に持つほどの信頼を基盤に、医療機関と他業種とのコラボを提案するための新会社トライを設立するなど、その挑戦は今も続いています。

「デジタルの時代だからこそ、改ざんリスクの低さなど、手書きの良さが見直される余地は必ずあるはず。今後も、富士フイルムでなければ作れない独自の〈感圧紙〉を提供し続けてほしいですね。社会に新たな価値を送り出していけるよう、共にチャレンジしていきましょう」

「グリーンサークル」誌上でも何度も紹介されたイステムジャパンのカラフルで機能的な帳票

